



福井県

中学校長会の窓

福井県中学校長会
福井県中学校長会広報部
朝日印刷株式会社

勝山市昭和町3丁目2-63-1
TEL (0779) 87-0027

第 148 号

令和6年7月16日発行

いっしょに
いっしょに



福井県中学校長会 会長 水野 克己
(光陽中学校)

三月十六日に北陸新幹線金沢―敦賀間が開業し、三十一日には「第一回ふくい桜マラソン二〇二四」が開催されました。四月に入ると桜並木が一気に満開となり、福井の街は県内外からの大勢の人で賑わいました。このように、今年の春は明るい話題が多く、そのような中で令和六年度の学校が始まりました。それから早数が月が過ぎ、街の木々は若葉がツヤやかな緑色に変わり、初夏の香りが感じられる季節になりました。各学校では、生徒たちが新しい環境での生活に徐々に慣れ、授業や行事、生徒会活動、部活動に本格的に取り組み始めた頃ではないでしょうか。

令和六年度福井県中学校長学校運営研究会（総会）は四月十日に開催されました。令和五年度の事業や会計報告、今年度の組織や役員、事業案・予算案について説明があり、すべて承認されました。各専門部の部長は四月二十三日の第一回理事会で承認されました。総会開催にあたりましては、福井県教育委員会教育長 豊北欽一様、県教育

庁参与 藤丸伸和様、義務教育課課長 岡本浩之様のご臨席を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

なお、二〇一九年八月に教育長に就任された豊北教育長は、この五月十八日に任期満了となりました。この間にはコロナ禍の時期もあり大変だったと思いますが、いつの時も『一人一人の個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり』の基本理念の下、個性を引き出す教育、学びを楽しむ教育、ふるさと教育、職員が輝く教職員の働き方改革を推進されました。在任中は、県中学校長会に対し、格段の御支援をいただいたこと心より深く感謝申し上げます。

さて、現代は社会状況の変化が激しく、先の見通しが予測困難になっていきます。このような中、夢の実現に向け、たくましく生き抜く子供たちを育成していくために、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想の発表、生徒指導提要の改訂、第四期教育振興基本計画の閣議決定と、教育に関する諸改革が次々に進められてきました。学校では慣れない技術や準備に大変さを感じながらも、着実に対応してきました。しかし、学校が取り組むべきことはそれだけでは

ありません。多様化・深刻化する生徒の課題・教員不足への対応や若手教員の育成、部活動の

地域移行などがあり、それらは多くの時間がかかるものばかりです。一方で、近年は教育現場の長時間労働、採用試験の倍率低下が深刻な問題となっており、働き方改革にも取り組んでいく必要があります。

三年以上続いたコロナは感染症法五類に移行され、学校では教育活動の幅が広がりました。ダイナミックな教育活動をしていくチャンスでもあり、新しい時代に向けた学校運営を推進していくときでもあります。そこには生徒や保護者、地域の様々な期待もあります。難しい学校経営が予想されます。このような時だからこそ、県中学校長会では、縦と横の連携を密にし、知恵を出し合い、組織として対応していくことが大切です。

私達校長はリーダーシップを発揮し、持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を目指し、明るい未来を切り拓いていくような学校経営に邁進していきましょう。

なお、大きな成果を収めてきた校長会の諸事業につきまして、学校数の減少等により、これまでの継続だけでは運営が難しくなってきました。情報や意見を集めて課題を整理し、議論を重ねていきたいと考えています。

最後になりますが、七月四日、五日に東海北陸中学校長会研究協議会が福井で開催されます。会が成功裏に終わりますようお願いし、全校長先生方の御協力をお願いします。

令和六年度 福井県中学校長会

役員名

- 会長 (光陽) 水野 克己
- 副会長 (名田庄) 赤井 孝行
- 副会長 (大東) 永廣 裕子
- 会計監査 (鯖江) 三崎 光昭
- 会計監査 (気比) 江戸 義直
- 理事 (福井・吉田)

- 理事 (光陽) 水野 克己
- 理事 (安居) 野坂 訓由
- 理事 (大東) 永廣 裕子
- 理事 (上志比) 佐藤 成司
- 理事 (丸岡) 松原 正恭
- 理事 (奥越) 鈴木 秀卓
- 理事 (陽明) 大石 貴昭
- 理事 (磨部) 斎藤 治
- 理事 (中央) 五十嵐 靖浩
- 理事 (越前) 川上 一規
- 理事 (万葉) 坂下 博行
- 理事 (池田) 森岡 裕一
- 理事 (粟部) 今村 憲和
- 理事 (角鹿) 岩崎 俊文
- 理事 (美浜) 高木 健吾
- 理事 (小浜) 富士 健一
- 理事 (名田庄) 赤井 孝行
- 理事 (国見) 正玄 努
- 理事 (成和) 安本 桂樹
- 理事 (教育院) 清水 牧田 菊子
- 理事 (人事行財政対策)

- 理事 (至民) 秦 計代
- 理事 (足羽) 岸上 尚毅
- 理事 (鹿野) 田邊 千智
- 理事 (鹿野) 鈴木 三千弥
- 理事 (明道) 野路 佳男
- 理事 (明倫) 竹澤 宏保

- 《事務局》
- 事務局長 五十嵐 隆美
- 事務局員 小林 利幸

会長挨拶

福井県中学校長会

会長 合川 修一
(進明中学校)



校長先生方、おはようございます。一月二月は雪も少なく、暖かい日が多かったのですが今年も桜の開花が例年より早いのではないかと思われましたが、三月に入って寒い日が続いたこともあって、福井市の桜の開花は今年並みの四月一日。おかげで、入学式当日は久しぶりに桜が満開の中で実施することができた令和六年度。福井県中学校長会総会が、県下全ての校長先生方出席の中で開催できますこと、大変うれしく思います。また、本総会には、校務ご多用の中、県教育委員会教育長、豊北欽一様、県教育庁参与、藤丸伸和様、義務教育課課長、岡本裕之様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、校長先生方には、昨年度一年間、福井県中学校長会の運営に御協力いただき、ありがとうございました。これまでの校長会組織の中での役割に加え、

今年度七月に開催される東海北陸中学校長研究協議会福井大会に向けての準備にも取り組んでいただきました。その準備もいよいよ最終段階に来ております。大会の成功に向けて、あとしばらくの御協力をよろしくお願いいたします。

今は教育大改革の時代と言われています。常にたくさん課題と向き合いながら教育活動を行っていかねばなりません。教職員の働き方改革においても、様々な取組を実践してまいりましたが、そろそろ手詰まりを感じています。休日部活動の地域移行については、各市町ごとに取組が進められていますが、生徒の活動場所や指導者の確保、安全な移動方法など明確になっていないことはまだまだたくさんあります。

また、ここ数年、各市町で進められている学校再編により、ブロックごとの学校数のバランスも崩れ始めています。校長会組織が十分に機能するためには、専門部会のあり方も含めて、ブロック再編を検討しなければなりません。

さらに、教員不足や若手教員の資質向上については、多くの学校で苦勞されている問題であり、産休育休代替教員が不在の状態です。新学学期をスタートしている学校もあると聞いています。これらは福井県だけの問題ではなく、全国的なものであり、公立学校教員採用試験の倍率低下などにも表れている若者の就職離

れは、福井県以上に深刻な状態となつている自治体も増えていきます。しかし、こういった課題は、校長一人一人の力で解決できるものではありません。われわれ県中学校長会が一つとなつて声を上げること、さらには東海北陸ブロック・全日中といった大きな組織として発言していく必要があります。

大変時間がかかることではあります。そういつた会に出席するわれわれの代表の背中をしっかりと押してあげていただきたいと思つています。

最後になりますが、本日は令和六年度の福井県中学校校長会最初の会議であり、この一年間の組織および活動の方向性を確認する会となります。全会員による慎重な審議をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

教育長祝辞

福井県教育委員会

教育長 豊北 欽一氏



県内六九校の校長先生が参加され、令和六年度福井県中学校長学校運営研究大会が開催されることを心からお喜び申し上げます。

また、中学校長会の皆様には、日頃から本県の教育力向上のためご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

まず、校内サポートルーム支援員事業についてお話しします。不登校の児童生徒や不登校の兆しが見え始めた児童生徒を支援するため、教室とは別の居場所を校内に設ける「校内サポートルーム支援員事業」を昨年度小中五校で実施しましたが、今年度は五〇校に拡充します。

昨年度取り組んだ学校からは、「学習面で不安があり、欠席が多かった生徒が、支援員と学習に取り組むことで自信をもち、教室に戻ることができた」とか「不登校児童生徒が登校したときに支援員と話すことで信頼関係を築き、登校できる日が増えた」などの成果を上げていっていると聞いています。

校内サポートルームが、ただの居場所ではなく、悩みや不安をもつ生徒が安心して居場所となるよう、各学校で工夫いただきたい。

校内サポートルーム支援員の研修の場を設定したり、定期的な情報交換をしていくので、よろしくお話しします。

次に、「小中学生次世代系人材育成事業」についてお話しします。

これまで県では、理数グランプリや理数ゼミなどを通して、児童生徒の興味関心を高める取組を行ってきました。昨年度からは、小学生向けの「サイエンスショー」や「算数なぞとき教室」、中学生向け「キャリア教育出前授業」を開催し、さらに理

系人材の育成に力を入れております。

中学生向けの「キャリア教育出前授業」は、本県出身の科学者や県内企業の研究者から、進路や職業を選択した経緯、研究の楽しさや魅力について聞くことができ、昨年度は十校で開催し、オンデマンドでも配信したところがあります。今年度は対象校を一五校に増やし実施します。今、大学でもリケジョを求める学部が増設されており、男女を問わず、進路分野への興味関心を高め、進路を考える一助にしてほしいと思つています。

次に、ふるさと教育についてお話しします。

昨年度から、中学生部門の「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」を開催し、三三チームの応募をいただき、鯖江中学校が最優秀賞を受賞したところがあります。

ふるさと教育につきましては、地域の課題を見つめ直し、持続可能な社会の実現に向け、新たな価値観や行動を生み出す探究活動を実施している学校が多いと聞いています。

今年度も引き続き、「プレゼンテーション大会」「ふるさと教育フェスタ」「ふるさと福井CMコンテスト」「ふるさとの学び特別賞」の募集を行いますので、各中学校から積極的な応募をお願いします。

次に、教科教育についてお話しします。

「引き出す・楽しむ教育」推進事業として、本年度もテーマに応じた講演・研修を実施し、子供の主体性を育む特色ある学校

づくりをさらに推進します。

中学生にはすでに英語の学習者用デジタル教科書が導入されていますが、児童生徒が学校や家庭でそれを有効に主体的に活用し、A L Tは英会話を重視した授業を行っていただくようお願いいたします。

次に、目指すべき教育についてお話しします。

私は、五年前に教育長に就任以来、中学校長に対して、「生徒に自ら学ぼうとする力を育成し、通うのが楽しい学校づくり、そして一律に教え込む教育から脱却させ、生徒の自発性や主体性を育むこと」をお願いしてきました。しかし、そこには、教職員との確たる信頼関係がないと、校長についてきてくれませんし、力を結集することはできません。昨年、この場で「できる校長が定めている60のルール」という中嶋郁雄氏が書かれた本を参考に「校長に強く求めること」という資料を配布しました。今年の二月に「信頼される校長の条件」といった竹内弘明氏の書籍が発行されましたので、少し御紹介します。

校長は、教職員を率いていかなければなりません。いかに教職員を動かすのか、教職員に動いてもらうのか。そこで校長と教職員をつなぐのが「信頼関係」です。信頼関係を構築するためには、まず、校長が教職員を信頼すること、そして信頼されるに足る校長の姿を見せることです。信頼関係の構築の基本は「話をすること」ですが、そのためには、丁寧な傾聴する姿勢が大切です。定期的な面談だ

けでなく、いつでも話をすることができるよう環境づくり、例えばいつも校長室のドアを開けておくなど環境づくりに努め、その敷居を低くすることができま。また、学校には非常勤講師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの非常勤の職員もいますので、ぜひ、こうした職員とも話をする機会をつくってみたい。なお、校長が言っているいけない禁句は、「愚痴を言わない」「疲れたと言わない」「文句を言わない」の三つだと言います。

校長は学校の代表であり、自校のことは何でも知っている必要があるポイント。学校のことを熟知することだと言います。校長が学校に関わる全てのものを愛おしく思うこと、そして全てに感謝の気持ちをもって取り組んでいくことが、学校の組織力を高めていくことにつながるのです。

危機管理は管理職にとって最も真価が問われるところ。危機管理の最善の方策は危機を起さないことであり、予防対策の一つとして役立つのが、いわゆるヒヤリハットの事例集です。少なくとも、校長は危機管理用のファイルやノートをつくり、ヒヤリハットを集約しておくことです。危機にどう対応するか、平時からのシミュレーションも大切に、他校で何か事件が起こったときに、もしも自分の学校で起こったらどうするか考えてみることです。

次に、事後の危機管理、クライシスマネジメントです。危機管理の基本は「さしすせそ」、「最

悪を想定し、慎重に、素早く、誠意をもって、組織的な対応をすること」とよく言われますが、それに加えて留意してほしいのが「クライシスコミュニケーション」です。「クライシスコミュニケーション」とは、非常事態の発生によって危機的状況に直面した場合に、その被害を最小限に抑えるために行う、情報開示を基本としたコミュニケーション活動のことです。

そして、「クライシスコミュニケーション」の三つの要点が①スピード、②情報開示、③社会的視座に立った判断、と言われています。

不祥事が発生したときは、お詫びの三点セットと言いまして「謝罪、原因究明、再発防止策」を忘れてはなりません。まず、謝罪は、学校として示せる最大の誠意は校長が自ら足を運ぶことです。担任や生徒指導担当者に任せるのではなく、校長が対応することで誠意を示さなければなりません。

最後に、校長職は感動的な仕事でもあります。大変な職ですが、それ以上にやりがいも大きいものです。校長職を不安に思わず、大いに楽しんでほしいものです。自身の健康管理にはくれぐれも留意してください。校長の代わりはありますが、家族の中では、あなたの代わりはいないのです。

福井で全中!

県中学校体育連盟

会長 安本 桂樹
(成和中学校)



今年八月、「君の憧れ 君の努力 その全てを北信越へ」のスローガンのもと、北信越ブロック五県で全国中学校体育大会が開催されます。福井県では、昨年度、実行委員会を立ち上げ、陸上バレーボール・軟式野球・バドミントンの四競技を開催する準備を進めてまいりました。その間、先生方をはじめ、県、市町、関係競技団体の皆さまには、物心両面から御支援をいただき、深く感謝申し上げます。夏季休業中の週休日を含む日程となり、御負担をおかけしますが、福井を訪れる参加選手にとって、福井が思い出の地となり、将来りピーターとなつて再び福井を訪れてくれることを願いつつ、皆さまからの御支援と御協力を、改めてお願い申し上げます。



千里の道も一歩から

県中学校教育研究会

会長 正玄 努
(国見中学校)



教育を取り巻く状況は大きく様変わりし、中学校教育研究会も、教育の質の維持と教職員の働き方改革の両立に向け、大きく変革の時を迎えています。中学校教育研究会集會も、コロナ禍を経てオンライン開催が主流となり、中学校教育研究会としても、発表本数減、発表資料の量や様式に幅をもたせる、中学校教育研究会ホームページの開設(校長会ホームページにリンクを貼らせていただく)とそれを活用した資料等の共有など、少しずつ改革を進めてきました。今後は、多様な研究会の実現のため、研究会のち方を部会長の裁量に委ねること、中学校教育研究会集會と上位大会や各教科・領域独自の研究会との統合、学校統廃合にマッチした四ブロック制とバランスのとれた部会長の割り当て等について、議論を深めていく予定です。いづれにしても、どんなニーズや障壁があるのか、それらと解決していくのかを、しっかりと時間をかけて詰めていく必要があります。一歩一歩、千里の道も一歩から」という言葉がありますが、よりよい中学校教育研究会のため、一歩ずつ歩んでいきたいと考えています。

中学教育に 清風

新入会員だより

『自律・協働・創造』 する生徒



上中学校長 大谷 由喜男

「前期生徒会の認証式では校長から生徒会役員に激励の言葉を」との依頼があった。せっかくなので全校生徒にも話をしたいと思い、認証状を渡した後、「入学式で『命を大切にしてほしい』と話したが、これは生命の維持だけを意味しているのではなく、『よりよく生きる』ことも含んでいる。人間は長い歴史の中で様々な困難を経験しながら、全ての者に人権があり、人権が守られなければよりよく生きることはできないと学んだ。そして大切な人権を守るための最も有効な手段として民主主義にたどり着いた。民主主義を簡単に説明するならばよりよく生きるためにどうすればよいかと自分達で考え、話し合い、合意したことはみんなが責任を持ち行動することだ。学校生活も人権と民主主義を視点に見渡し『こうすればもっと良くなるのでは』ということがあれば、どんどん提案し、実現

決意新たに 『希望の瓦』に思う



金津中学校長 常廣 一頼

に向けて臆することなく挑戦してほしい。私への要望や提案も大歓迎。いつでも校長室に来てほしい」という旨の話をした。既に修学旅行実行委員と生徒会三役が校長室を訪ねてくれている。反応の速さと目指す生徒像に向かってくれていることがとてもうれし。

本校の前庭には、ひときわ異彩を放つ巨大なモニュメントが設置されている。『希望の瓦』です。入学した一年生とその担任が、好きな言葉やイラストなどと共に自分の名前を刻み、一人一枚ずつ焼き上げた瓦です。

二七年前から続くこの取組。卒業した高校生や保護者となった卒業生、金津中教員OBが、自分の瓦を探し当てるのが恒例となっています。瓦を見つけ感慨深く眺めている姿を見ていると、今後も絶対に継続していきたい取組であると強く思います。三年ぶりに本校に赴任し、改めて一枚一枚の瓦を眺めてみました。そこには希望や想い、夢がぎゅっしりと詰まっております。個性があふれていました。『夢や希望を抱き続けられる学校に』、『その子がその子らしく育つ学校に』、『子供たちが笑顔で生き生きと学び合える学校に』、『社会

何でも越えろ



南越中学校長 宇野 秀美

で通用する力をしっかり身に付けられる学校に』……様々な想いが沸き上がり、校長としての覚悟と決意を新たにしたいところです。

本校は、四方を緑に囲まれた豊かな自然環境の中にあります。校区には長い歴史がある越前和紙の産地や、桜や紅葉で有名な花籃公園、由緒ある岡太神社や大瀧神社など、歴史的に有名な場所がたくさんあります。また、今立地区唯一の中学校として、地区や住民の期待も大きく、家庭・地域が学校をバックアップし、皆で子供を育てていくという意識が強く感じられます。このような恵まれた環境の中で、校長として一年目をスタートできることをとてもうれしく思います。

南越中学校に赴任した初日、玄関を開けて最初に目に飛び込んできたのが、『南でも越えろ』というこの言葉でした。生徒会が、『南越中の『南』と『越』の文字をとって、何にでも挑戦していくぞという思いで作ったスローガンだ』ということが分かりました。シンプルながら、思いがしっかりと伝わってくるいいスローガンだと感じました。既存の概念や慣習にとらわれず、常に新しい視点をもって学校運営に携わることが大切なこととす。新しい取組には、障害や困難もついてきますが、常に挑戦する姿勢を大切にし、私も『何でも越えろ』の精神で邁進していきたいと思えます。

自然豊かな 『粟生野(あわの)の里』で



粟野中学校長 橋本 光一

本年四月、一三年ぶりに粟野中学校に着任しました。本校は敦賀市南部に位置しており、校歌に「仰ぎみる野坂の御嶽」、「水清き黒河の流れ」と歌われる自然豊かな「粟生野の里」を校区としています。令和六年度は生徒六八七名、教職員六七名でスタートしました。

「協同(Cooperation)」「創造(Creation)」、生徒、教職員には「ICC」の略語で浸透しています。入学式、始業式では、本校の校訓に添い、「自主・自分自身でしっかりと考える人」「協同 仲間と共に支え合い努力する人」「創造 夢に向かって挑戦する人」として、そのような人物を目指して邁進していかれることを期待していると話しました。今、敦賀市、福井県は新幹線開業により大きく変化しようとしています。子供たちを取り巻く環境もめまぐるしく変わっています。そのような中、夢をもち、その夢を正夢にして、未来の敦賀市、福井県を担ってくれる人物が出てくるよう、職員と共に全力で教育に取り組んでいく決意です。

いざともに



永平寺中学校長 林 誠司

悠々と流れる九頭竜川の河畔「津室が丘」に本校はあり、自然豊かな環境の

下、一・二・三名の生徒は元気に学校生活を送っています。私が学年主任の時に始めた「ふるさと探究学習」も五年が経ち、様々な着眼点を変えながら、生徒は「ふるさと永平寺町」への見識を深めてきました。今年の二年生は町民の「幸せ」を、三年間を貫く探究テーマに掲げ、社協や教委、地域の方々の協力を得て、現地調査やインタビュー等、リアルな体験を大事にしながら探究を進めています。大山永平寺門前の活性化や、地域のふれあいサロンの充実を図るための方策等を、生徒なりに考え発信しようと、学びを積み重ねていくところです。

昨年度の発表会で「地元の中学生在が、町民の幸せについて真剣に考え学んでくれていることを幸せに思う」との感想をいただきました。子供たちの期待の大きさや、地域住民の寄せられる期待の大きさに改めて気付かされました。本校校歌「いざともに」にあるように、学校や家庭、地域がともに前進できるように、決意を新たに尽力してまいります。

小中連携で魅力ある 学校づくり



朝日中学校長 幸坂 浩

本校は平成二十一年四月一日に、旧朝日中学校と旧糸生中学校が統合され、新しい学校「朝日中学校」として開校しました。本年度で開校一六年目と、比較的歴史の浅い学校です。校訓「進取」「精思」「創造」のもと、新しい校風、伝統を築

くために、二三四名の生徒と
三四人の教職員が、教育活動に
取り組んでいます。

昨年度は、朝日中学校区にお
いて「魅力ある学校づくり」事
業指定を受け、校区内の三つの
小学校と連携した取組を実践し
てきました。本年度は「子ども
の育ちをつなげよう」主体・協
働の実現」という連携目標を掲
げ、小中連携事業を強化してい
きます。

具体的には、生徒指導の四つ
の視点を取り入れた授業研究を
通して、学びを楽しむ子供を育
成する「魅力ある授業づくり」と、
子供が企画・運営し、子供同士
のあたたかいつながりを生み出
す活動を推進する「あたたかな
つながりを生み出す活動づくり」
を柱として、取り組んでいきま
す。

小中九年間を通して子供たち
の居場所づくり・絆づくりに努
め、いじめ・不登校等を生まな
い魅力ある学校づくりを追究し
ていきたいと考えています。

大きな小規模校に

東浦中学校長 鈴木 成吉



本校は、青
い空と海、緑
の山々に囲ま
れた、東浦み
かんの栽培で
有名な地域に
ある全校児童生徒二六名の小中
併設校です。子供たちは毎年「東
浦みかんプロジェクト」として、
校区のみかん園で摘果・収穫・
剪定作業やPR販売活動を行う
など、働き手の一員として地域
に貢献しています。地域の方々
からは、校地の樹木の剪定や草
刈り、冬場には除雪等、たくさ
んの支援をいただき、まさに地

域とともに歩んでいる学校です。
一方、令和二年度に「小規模
特認校制度」が導入された学校
でもありません。これにより敦賀
市内全域からの就学が可能とな
り、五年目となる今年度は校区
外からの児童生徒が半数を占め
ています。個別最適な学びを求
める子供たちが、本校に就学し
より一層の輝きを増している姿
を見ると、喜びがあふれ、本校
に与えられた使命感を職員一同
で感じているところであります。
児童生徒数の減少を心配され
ている地域の方々からも応援され
ています。

このように、「規模は小さな学
校」ではありますが、敦賀市の
子供たちや地域の方々にとつて
「存在は大きな学校」として、更
に発展していけるよう精一杯取
組んでまいります。

柳 博恵
本校は、「自主協同」
を掲げ、自由
闊達で互いの
個性を尊重す
る校風が根付
いています。「探究し協創するコ
ミュニティ」を研究主題とし、
教師も子供たちも互いに学び合
う学校文化が醸成されています。
平成二十九年度に義務教育学校
が設置されたからは、後期課程
（中学校）で実践されてきた三年
間に渡る学年テーマ解明に向け
ての学年プロジェクト学習を前
期課程（小学校）を含む九年間
の成長段階に応じて課題設定や
活動方法を整備した「社会創生

自律的な学び手の 成長を目指して

福井大学教育学部附属
義務教育学校後期課程副校長



プロジェクト」として進めてい
ます。さらに、幼稚園との連携
によって十二年間を通して成長
を支える仕組みを構築し、令和
三年度からは幼稚園・義務教育
学校協働開催の教育研究集会を
実施しています。
協働探究学習は、子供たちの
個性や多様性を尊重し、自律的
な学び手への成長を促していま
す。子供と教師が共に新たな価
値を生み出していく魅力的な学
校づくりを目指していく所存で
す。

三崎 光昭
元日の能登
地震では、多
くの方が犠牲
になり、また
多くの方が被
害に遭われま
す。生徒が校舎にいる時間帯
に災害が発生することも想定し、
様々な準備の大切さを感じてい
ます。
そんな中で鯖江中学校は、耐
震を含めた大規模改修工事で災
害に強い頑丈な校舎に生まれ変
わります。工事期間中は、鯖江
高校丹南キャンパスを仮校舎と
してお借りします。騒音、振動、
重機等の出入りによる安全面へ
の配慮など、生徒が落ち着いて
学ぶ環境を確保するためです。
夏休み引越越し、二期期から
丹南キャンパスでの生活を始め
ます。新校舎完成は令和九年四
月。二年七か月の仮校舎生活で
引越越し準備を進める中で強
く思うのは、生徒には、校舎が
どこであっても鯖江中学校に誇
りと愛着をもち、自信をもつて
鯖江中学校を卒業したと言つて

鯖江中学校への誇りと愛着

鯖江中学校長 三崎 光昭



もりたいということですが。
生徒は今、笑顔で感謝を伝え
る「校舎お別れ会」を企画したり、
仮校舎を紹介するミニ映画を製
作するなど、この機会を学びの
場にする取り組みをしています。
この期間に鯖江で良かったと
思えるよう、生徒が主役の学校と
して、充実した学校生活を保障し
ていきたいと考えています。

校長の楽しみ方

三方中学校長 高橋 善彦



三方中学校
は私の母校で
あります。ま
た、新採用と
して赴任して
一二年間勤務
した初任校でもありました。県教
員育成指標でいうところの「教
員としての基礎を固める」第一
ステージの時期をまるごと過ご
し、私を育ててくれた学校で校
長を務めさせていただく幸せと
責任を感じています。現在の保
護者には教えるも多くの、「先生に
は中学生のとき御世話になった
んで、今度は僕らも保護者とし
て協力しますよ」と声をかけて
くれる保護者もあり、ありがた
い限りです。
一方、自身の職員室での振る
舞いには心配もありました。「校
長一年目」ではありますが、校
内昇格でしたので「三方中教頭
二年目」という感覚で動いてし
まいそうだったからです。ここ
ろが、新年度がスタートしてみ
ますと、校長として「哲学的（と
きには実践的）なことを全職員
にしつかり伝えることができる」
という「発信の楽しさ」を味わ
えなかった「校長の楽しみ」を見
つけた感があります。今後もち

長職を楽しみながらよりよい学
校づくりに取り組んでいきたい
です。

自分たちで学校を創る 喜びをいつまでも

丸岡南中学校長 上田 裕明



今から約
二〇年前、本
校開校に向け
て、教科セン
ター方式の先
進校を訪問し
たことがあります。
視察先では、「生徒指導が機能
しなければ、授業が成立しなく
なる・ものがなくなる・壊され
るというリスクがあることを覚
悟してください。」との話があり
ました。
未知のスタイルであり、視察
の帰りに本当にやっていたけれ
かど帰りの道中、議論したこと
を覚えていました。
そして現在、本校は十九年目
を迎えています。生徒の主体的な
取組が当たり前となり、行き止
まりや死角のない設計を生かしな
がら教科や学年の枠を越えて全
職員が全生徒を見守る学校とし
て評価されるに至っています。
活力ある生徒、抜群のチーム
ワークの教職員、支援していただ
いている家庭や地域の方等、これ
まで本校に関わったすべての方々
の努力の賜物だと思っています。
ガラス張りの校舎で光と風を
気持ちよく感じることができ
る環境のもと、新しいことがで
しなが自分たちで学校づくり
を進めるといふ校風・伝統をさ
らに発展させ、一人一人が誇り
に思える学校づくりを進めてい
きたいと考えています。

幸せな将来を願って

杉坂中学校長 竹野 泰弘



本校は緑豊かな丘陵地帯に位置し、周囲を杉の林に囲まれていますが、近くを走る県道から林を抜ける坂道を上がった場所に学校が位置していることから、学校名に「杉坂」の名前がつけられました。

福井市杉坂中学校は、児童自立支援施設における就学義務が規定されたことを受け、令和三年四月に開校しました。学校に通ってくる生徒たちの生育歴やこれまでの教育体験は多様性を極めていきます。高い学習効果を目指すために、個別の実態に十分配慮した指導支援が必要になってきます。基礎的・基本的な学力の獲得のみならず、施設職員との十分な連携を図りつつ、身体面や情緒面の総合的な発達を目指しています。

このようなか、学校経営理念として、「一人一人が他に代えがたい人格存在であることを生徒に関わる全ての者が認識し、生徒と教職員および生徒同士の信頼関係や集団生活を軸として最大限の自己実現を図り、秩序を重んじ、これからの社会を生き抜く人間力を育てる」としました。この経営理念のもと、生徒たちが夢を膨らませ、希望に満ちた将来像を描けるよう努力してまいります。



日野山のよう

武生第六中学校長 青木 敏之



本校は、越前市の南部、王子保地区に位置し、その優雅な山容から越前富士と呼ばれる紫式部の歌にも詠まれました「日野山」を仰ぐ場所にあります。

本校沿革史を紐解くと、前身の旧王子保中学校は旧武生市へ編入の際、他校の分校となったが、その後再び王子保中学校として「独立した」と記されています。本校への地区の熱い思いと期待が感じられる一文です。

現在も、地域とのつながりは強く、地元の指導を受け四〇年以続く大菊栽培では、「たけふ菊人形」への出展や、公民館、小学校、保育園での展示を行っています。また、地区運動会へのボランティア参加、王子保駅イルミネーションの製作など、地域との活動は多岐にわたります。

このようなか恵まれた教育環境のもと、「確かな学力、豊かな心、健やかな体をそなえた生徒の育成」を学校教育目標として、自らが考え、行動し、実践する生徒の育成に努めてまいります。そして、伝統ある王子保地区の一員として、地域発展に寄与する人材の育成に取り組んでゆきたいと考えています。

三心三行動

大飯中学校長 渡邊 博司



本校の位置するおおい町は、豊かな自然と温かい人々に囲まれた美しい町で

す。そして、「頭は英知に 心は豊かに 身体は頑健に」の校訓のもと、本校は創立四十七年目を迎えています。

今年度は「未来を自ら切り拓く生徒の育成へ・自立と共生」を教育目標に掲げ、自分と大切にしたい思いを表現する生徒・自ら学び粘り強く取り組む生徒・仲間を尊重し認め合い励まし合う生徒・ふるさとを愛し未来の創り手となる生徒を目指し、日々の教育活動を行います。

本校には、大飯中学校の誇り「三心三行動」と呼ばれるものがあります。心を「つなぐ」挨拶、心を「磨く」黙読流汗清掃、心を「整える」整理整頓の三つです。心を込めた行動や心が伝わる行動のできる人を目指して、生徒会執行部や各委員会が様々な活動に取り組んでいます。

素直な生徒、協力的な保護者、熱心な教職員が心をつなぐにして、笑顔と本気のある学校づくりに邁進していく所存です。

地域とともに

内浦中学校長 安田 雅之



本校は、若狭富士と呼ばれる青葉山を間近に望み、眼下には内浦湾の青い海原が広がる風光明媚な環境にあり、すぐ先は京都府舞鶴市となる福井県の最西端に位置しています。

小学生二〇名、中学生一〇名の、小中併設のへき地校であり、普段から、中学生が小学生の面倒をよく見て、お互いに相手のことをよく理解した上で交流や活動ができています。こういう関わりがしっかりと根付いている

ところが、本校の良さでもあり強みであると感じています。

学校教育目標には「課題解決に向け自ら進んで活動する子の育成」を掲げ、少人数であることを生かして個に寄り添いながら、対話やつながりを重視した協力的な教育活動を進めています。

今年度は、しばらく中断していた地域と合同での体育大会も再開されます。地域も学校との関わりを楽しみにしてください。学校も地域の協力で大きく支えられていきます。学校は地域とともにあり、地域に温かく見守られていることを感じます。

これからも、ふるさとを愛する子供たちの育成に努めるとともに、学校が、家庭や地域と一体となり、地域全体が幸せになるような役割を担っていききたいと思えます。

いきいきと働くことができる職場づくりを目指して

藤島中学校長 宮本 巧



本校は、市内北部に位置し、周囲を田んぼに囲まれた、創立四〇年を迎える市内では比較的新しい学校です。全校生徒三二八名で令和六年度をスタートしました。

全職員が「いきいきと働く事ができる職場」にするためには、ただ多忙を軽減させるだけではなく「仕事が楽しい」と思えるような職場にすることが大切だと思います。また、自ら主体的に「危機感・スピード感・一体感」をもち、教師としての資質・指導力の向上を目指していく必

要もあります。

しっかりとコミュニケーションをとり、若い先生の意見を尊重し、全員で「対話」をしながら「つながり」をもち、協働している職場にしていきたいです。私は、生徒一人一人が豊かな心を持ち、仲間とともに向上していく意欲あふれる生徒に育ってほしいと願っています。全職員が達成感を感じ、いきいきと働くことによって、生徒たちにも大きく影響を及ぼしていくはずだと思います。そのためにも、まず、校長の私が元氣よく働き、リーダーシップを発揮することが大切だと思います。



編集後記

皆様の御協力を賜り、第一四八号をなんとか発行することができました。原稿執筆に御協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。変わりゆく教育界、戸惑うこともありますが、今日も元氣な校長でありつづけましょう。